（事後評価）

海洋鉛直微細構造による内湾環境の診断評価

（研究期間：平成１３年）

任期付研究員：長尾　正之（独立行政法人産業技術総合研究所）

○総　評（一定の成果が得られた研究である）

本研究は、信頼性の高い閉鎖性海域の環境診断評価に必要な鉛直微細構造モニタリング技術の開発を目指し、乱れを含めた鉛直微細構造の測定解析技術と水質鉛直微細構造の連続モニタリング技術に関する研究を行うものである。

本研究においては、鉛直微細構造の測定解析技術の研究を行うため、「微小生物鉛直分布測定装置」の設計・製作が行われるなど、一定の研究成果が得られているが、研究期間が１年間と限られていたこともあり、十分な診断評価や効果的な情報発信は行われておらず、今後、現場での観測を積極的に行うなど、本研究の更なる発展が期待される。

他方、任期付研究員の活用効果については、今般の研究が任期付研究員の任期期間中の最後の１年間のみのものということもあり、評価に窮するところもあるが、限られた期間の中で主体的に目的を明確にして研究課題を遂行する任期付研究員の存在が、他の研究者に対する刺激となり、研究所の活性化が図られている。また、研究所においては、任期付研究員が任期期間中に一貫したテーマを整った環境で研究できる体制を確保するとともに、その研究成果を積極的に評価し、任期終了後、任期を定めない研究員として採用するなど、研究所の任期付研究員に対する支援も十分に行われている。

以上により、本研究は、総合的に一定の成果が得られた研究であったと評価できる。

＜総合評価：ｂ＞

○評価結果

総合	1.目標達成度	2.目標設定	3.研究成果				4.任期制	
			1.科学価値	2.①科学的波及効果	2.②社会的波及効果	3.情報発信	1.活用効果	2.機関支援
b	b	b	b	b	b	b	b	a